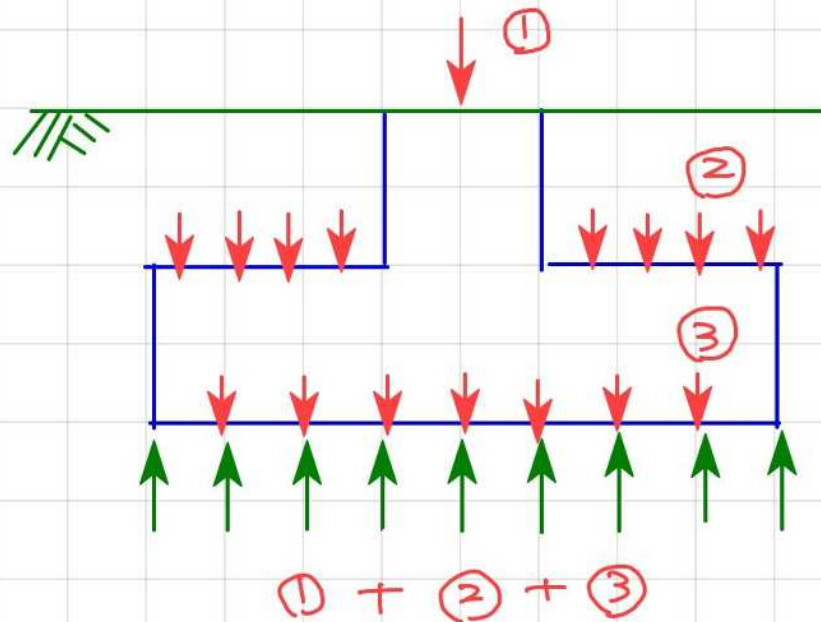


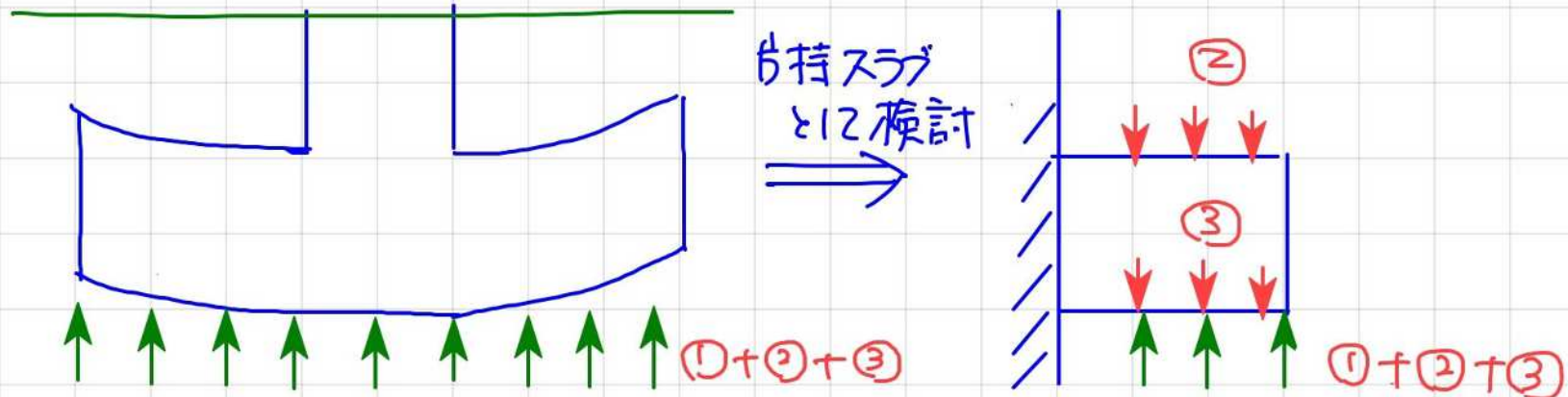
NO.1 基礎スラブの部材応力算定用の接地圧



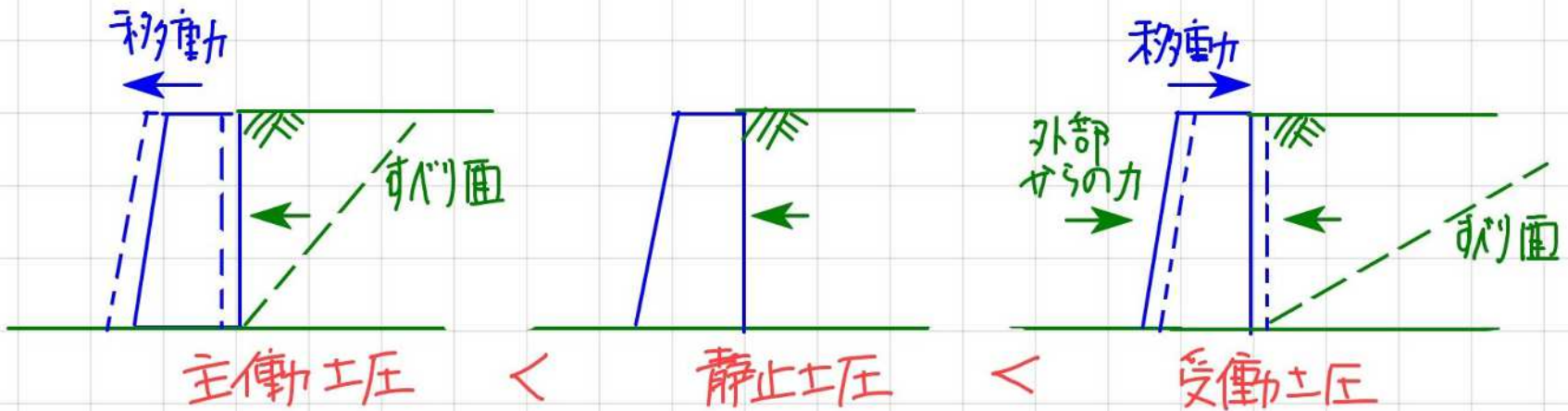
- ① : 上部構造からの荷重
- ② : 埋戻し土重量
- ③ : スラブ自重

接地圧 \leq 地盤の許容応力度

基礎スラブの検討



No.2 受働土圧



主働土圧：壁体が背面の土から土圧を受けてその土から離れるように動くとき、土が壁体に及ぼす圧力。

受働土圧：外部から力が加わって壁体が土の方に向かって動くとき、その反力として壁体に加わる圧力。

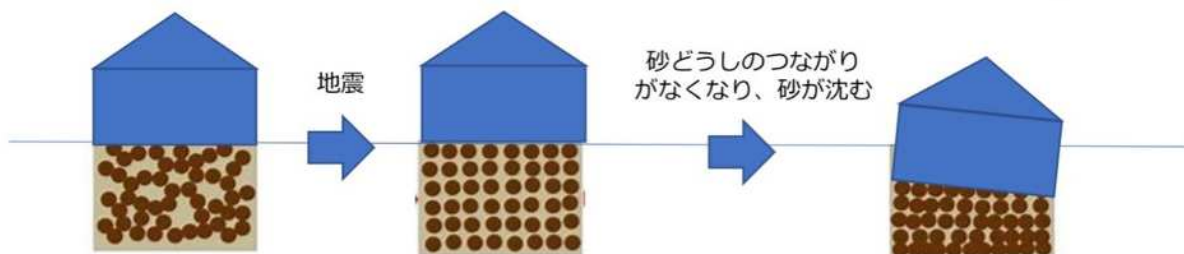
静止土圧：壁体の移動がないときに土が壁体に及ぼす圧力。

No.3 砂質地盤の許容応力度 令93条

地盤の許容応力度及び基礎ぐいの許容支持力は、国土交通大臣が定める方法によつて、地盤調査を行い、その結果に基づいて定めなければならない。ただし、次の表に掲げる地盤の許容応力度については、地盤の種類に応じて、それぞれ次の表の数値によることができる。

地盤	長期に生ずる力に対する許容応力度 (単位 kN/m^2)	短期に生ずる力に対する許容応力度 (単位 kN/m^2)
岩盤	1,000	長期に生ずる力に対する許容応力度のそれぞれの数値の2倍とする。
固結した砂	500	
土丹盤	300	
密実な礫層	300	
密実な砂質地盤	200	
砂質地盤 (地震時に液状化のおそれのないものに限る。)	50	
堅い粘土質地盤	100	
粘土質地盤	20	
堅いローム層	100	
ローム層	50	

液状化：水で飽和した砂質地盤が地震の揺れによって液体のようになる現象



NO.4 直接基礎の即時沈下

